

地歴公民科

主任 丸田 博臣

(1) 今年度の目標

- ①社会事象に関心を持ち、自ら学び、考え、社会をよりよくしていこうとする人間を育成する。
- ②「読書人」を育成する。
- ③文章を書く力、論述する力を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ①自分で学習する態度を養うため、教材のさらなる精選に努め、授業用プリントなどを工夫する。
- ②社会事象に興味関心をもたせるために、視聴覚教材の活用に努める。
- ③授業などを通じて、生徒に書籍を紹介し読書をすすめる。

(3) 授業アンケートの結果と分析

① 日本史

全般的に授業内容に興味・関心を持って、理解度も高いが、単位数の違いから理系で「進度が速すぎる」という声が出てきた。基本事項など授業内容の精選と学習項目の関連づけが必要であると考え

② 世界史

9割以上の生徒が「授業はわかりやすい」、8割の生徒が「興味・関心を持てた」と答えた一方、「努力した結果よい成績をおさめた」生徒は4割ほどにとどまった。「より深い知識を学ぼうと思うようになった」生徒も5割ほどであったことから、授業を聞いているだけで、積極的な取り組みにまで至っていないことがうかがわれる。

③ 地理

「授業の説明はわかりやすい」、「授業で何を学ぶべきか課題が分かる」と答えた生徒が約8割であり、学習に対する理解や興味・関心の高い者が多い。一方で、とくに3年生理系の生徒を中心として、授業進度が早いと答えた者が2割程度いた。また、授業プリントの活用、視聴覚教材の利用などを継続してほしいという意見があった。学習内容の精選、工夫と文系・理系間での進度調整が課題だと感じた。

④ 倫理

一様に興味・関心を持って学習に取り組んでおり理解も深まっているようだ。学習内容に強い関心を持つ生徒もおり、思想と社会とのつながりを意識できるようになっている。ただ、講義中心になるため、授業に対して受動的な姿勢の者は緊張感を維持しにくくなる傾向にある。生徒の活動をより増やす工夫が必要だと感じた。

⑤ 政治・経済

何を学ぶべきかという課題を把握できているようである。概ね興味・関心を持って学習に取り組んでいると思われる。1週間の出来事をネタにした「世の中まとめて1週間」という時事問題を扱う授業は生徒に好評である。

(4) 今年度の成果と課題

① 「日本史」

2年生は新課程での改訂により、学習する分量が増えている。生徒の自主的な学習を促進するためにも授業プリントについては自学できる部分を作り、理解を深めたり、定着を図ることができた。視聴覚機材を用いた映像を用いて時代のイメージを喚起できたが、前近代については時代考証が今後の課題として求められる。また、各教員の専門領域を中心にできるだけ生徒が興味を持てる書籍を紹介した。

② 「世界史」

視聴覚教材の活用や書籍の紹介などにより、興味関心を引くことはできているので、自発性を育むような工夫をしていきたい。どうしても遠い世界の出来事という認識があるので、どれだけ世界

史が身近なことに関わっているかを伝えることがポイントとなるだろう。

③「地理」

研究授業などを通じて、地理に対する興味・関心を高めることができた。また、授業プリントを用いて効率的に学習を進めることができた。一方で課題として、文系生徒と理系生徒で単位数に差があるため、課外や補講などを利用した進捗調整が必要だと感じた。また、教材をより精選し、学習内容の定着をはかるとともに、知識・理解のみではなく、地理的な見方や考え方、地理的技能を問う力を、作図や地図の読み取り、地理情報システム（GIS）などを授業に取り入れ、身につけさせたい。

④「倫理」

抽象的な内容を取り扱うことから理解を深めるために具体例をあげながら進められた。定期考査で論述問題を設定することで各自の思考の深化を図ることができている。ただ進捗は遅れがちで、センター試験で出題が増えている現代思想について触れておく必要もあり、今後の方策について検討していきたい。また今後、思想家の言葉や抽象的な概念を理解するために国語力をより高める工夫もしていきたい。

⑤「政治・経済」

政治分野での教材の精選をさらに進める必要性を感じている。テレビニュースや報道番組を教材化したものは生徒に好評でさらに進化させたい。世の中の出来事を知らせることはできていると思うが、社会事象の意味をもっと考えさせる場面を増やす授業にしたい。3年生であることも関係しているためか、生徒の読書量は極めて少ない。できるだけ本の紹介はしているが、動機付けにもっと工夫が必要である。